

1. 科目名 (単位数)	児童・家庭福祉論Ⅱ (2単位)	3. 科目番号	SJMP3101
2. 授業担当教員	西村 彩恵		SSMP2303
4. 授業形態	講義、グループディスカッション、演習、プレゼンテーションなどを取り入れた形態を重視する。	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	2年以上、児童・家庭福祉論を履修済みであることが望ましい。		
7. 講義概要	急速に進む少子高齢社会に対応した児童や家庭に対する支援と今後の児童・家庭福祉のあり方について、児童・家庭福祉論で学んだ、子ども家庭福祉の原理、理念、権利保障、子ども家庭福祉にかかわる法制度、福祉・保健施策、子ども家庭への援助活動などを復習した上で、児童・家庭福祉論Ⅱでは、子ども家庭にかかわる福祉・保健政策について、とりわけ子どもの貧困など、グループでテーマを設定した上で、学習を進め、成果を発表する。併せて、社会福祉士国家試験に対応できる授業内容とする。授業の進め方は、授業開始時に分けたグループでの研究が基本となる。また、学生が授業運営に参画する度合いを増やす。		
8. 学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢社会における子どもや家庭に対する支援の必要性、児童家庭福祉の制度の全体像を理解し、説明ができる。 ・グループでの研究を通じて、文献の読み方、資料の集め方、調査の方法を理解し、活用できるようにする。 ・グループでの研究を通じて、研究の目的、方法、結論、考察をいった手順を活用できるようにする。 ・グループでの発表を通じてプレゼンテーションの方法を身につける。 ・その他、文章の要約方法、社会に出た時に活用できる発想法や分析方法、スピーチ・プレゼンテーションなど具体的手法、スキルを授業の中で身につける。 		
9. アサシメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. グループディスカッションを通して、各グループで研究テーマを1つ設定し、テーマに関する近年の動向や既存の研究内容など、学術的な知見を踏まえて研究内容を絞り込む。そして、グループメンバーが相互に協力し事例等を見つけ、分析した結果をグループでの見解(共同研究)としてまとめる。グループの中でこれら一連の作業を分担して行い、グループ全員で研究内容を口頭で発表する(中間発表、最終発表の計2回行う)。なお、最終発表の実施は中間発表を行ったメンバー及びグループ、研究授業論集の提出は最終発表を行ったメンバー及びグループが対象となる(配慮すべき事情がある場合を除く)。 2. 最終発表の内容をグループでさらに吟味し、共同研究の成果(研究授業論集)として文章化する。 3. 授業内容やグループの活動状況を踏まえ、各自またはグループの見解を文章でまとめ提出することがある。また、受講者の受講状況により、小テストを実施する可能性がある。 「児童・家庭福祉論」で学んだことを土台に、上記で示した口頭発表や研究授業論集の作成を通して研究倫理の重要性を学びながら、共同で研究するための視点を見出し、論理的思考力や概念化能力、グループの見解を文章化する力、他者と共同で物事に取り組む力を培う機会とする。 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【参考書】一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新社会福祉士養成講座 3 児童・家庭福祉』中央法規出版、2021。 社会福祉士養成講座編集委員会編集『新・社会福祉士養成講座 児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉論』第7版 中央法規出版、2019。</p> <p>【教材】プリントを配布する。配布プリントを綴じるファイルを用意したうえで、授業中に重要な点や事柄を配布プリントにメモしておく、予習・復習、課題提出の際に各自で活用すること。配布プリントに直接記入しない場合は、授業中に自分のスマートフォンから配布資料を見ることは控え、持参したノート、タブレット等に転記して下さい。</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 少子高齢社会における子どもや家庭に対する支援の必要性、児童家庭福祉の制度の全体像を理解し、説明ができる。 2. グループでの研究を通じて、研究のスタイルを理解し、活用することができる。 3. 発想法や分析方法、スピーチ・プレゼンテーションなど具体的手法、スキルを授業の中で身につけ、活用することができる。 <p>○評定の方法</p> <p>授業への積極的参加度、日常の受講態度、レポート等を総合して評価する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業への積極的参加 (調査・ディスカッション・発表) 総合点の40% 2. 日常の学習状況 (小テスト・小レポート・学外調査・提出物) 総合点の30% 3. 課題レポート 総合点の30% 		
12. 受講生へのメッセージ	<p>授業を進めるにあたり、下記の4つの項目に留意すること。また、学内の状況、授業の進捗状況・理解度、受講者数に応じて、授業内容等を変更する場合がある。PowerPoint、Word やインターネット等を活用して、グループディスカッション・発表、発表資料及び研究授業論集の作成を行う。そのため、本学の機能を活用しつつ各自の受講環境を整備したうえで、真摯に学ぶ姿勢と主体的な参加が求められる。また、グループ活動が中心となるため、グループ内で協力し合い、各自の強みを生かして地道に且つ根気強く取り組むことが重要となる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. グループ活動が中心となるため、遅刻・欠席に注意し、やむを得ず欠席する(した)場合は書面またはメールにより必ず教員に届け出ること。遅延の場合は、遅延証明書を当日又は次回授業までに担当教員に提出する。遅延の累積回数が多い場合は、遅延を認めないことがある。なお、本学の規定を十分に確認のうえ、出席状況の自己管理を徹底すること。 2. 補習課題、発表資料やレポート(研究授業論集)などの課題の提出期限を遵守すること。期限後提出は、減点対象となる。大幅に時間が経過した後に発表資料や課題を提出した場合は、受理しないことがある。課題の減点及び受理不可により、単位修得に支障が生じる可能性があるため、十分注意して授業に臨むこと。 3. 真摯に学ぶ姿勢や主体的な参加は前向きに受け止め、授業への貢献度として加味する。但し、配布資料や筆記用具等を持参しない、私語や居眠り、学習テーマ以外の作業、(グループメンバー及び授業担当者か 		

	らの連絡に対して応答しないなどの)グループ活動等の授業に関わる事柄での非協力的な姿勢、その他授業を妨げる行為は慎むこと。これら一連の受講態度は、減点対象となる。 4. グループで口頭発表資料や研究授業論集の作成・提出のほか、口頭発表を行うため、グループ全員の協力姿勢且つ主体的な研究姿勢が求められる。相談事がある場合は節度を守りつつ、速やかに授業担当者に相談すること。なお、グループは配慮すべき事情がある場合を除き、研究授業論集の提出まで原則同じメンバーで取り組む。
13. オフィスアワー	オフィスアワーは授業内でお知らせしますが、事前にメールでアポイントメントを取って下さい。 メールアドレス：sanishim@ed.tokyo-fukushi.ac.jp

14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション： 授業の進め方についての説明	事前学習	配布資料を綴じるファイルを用意したうえでシラバスを一読し、講義概要、学習目標等について理解を深める。児童・家庭福祉論で学んだ内容をふり返り、自分の問題関心を整理しておく。
		事後学習	授業内容を確認し、配布資料をファイルに綴じる。今後の流れや研究の意味・意義を含め整理し、近年の子ども家庭福祉に関する動向を調べ、研究したいテーマの候補を考える。
第2回	研究テーマの決定と情報収集 (子育て支援施策、子ども家庭福祉の行政機関と専門職、地域子育て支援、児童健全育成、母子保健、保育、児童虐待対策、社会的養護、ひとり親家庭を含む女性支援・ドメスティック・バイオレンス、少年非行・若者支援・スクールソーシャルワーク、障害のある子育て家庭への支援など)	事前学習	自己の体験やこれまでの学習をふり返り、研究テーマの候補を絞り込む。また、近年の子ども家庭福祉に関する動向についてインターネットを活用して調べておく。
		事後学習	授業で示した情報収集の方法をもとに、インターネットを活用し、決定したテーマや内容に関する近年の動向から官公庁等が公表するデータ(図表)を収集する。
第3回	中間発表に向けた準備とその進め方① 問題関心の整理と研究成果に関する情報収集の方法	事前学習	中間発表資料で使用する官公庁等が公表している図表を複数選定する。また、配布資料を一読したうえで、問題関心を絞り込む。
		事後学習	研究論文等の検索データベースを活用して、研究テーマに関連する研究論文等の文献を見つける。また、他のグループでの進捗状況を参考にしながら、自分のグループでの中間発表の準備に活かす。
第4回	中間発表に向けた準備とその進め方② 先行研究のレビューと研究上の問いの検討	事前学習	中間発表資料で使用する研究論文等の文献を複数選択する。また、配布資料を一読する。中間発表の順番の候補を考えておく。
		事後学習	官公庁等が公表するデータ(図表)と研究論文等の文献の内容を整理したうえで、グループで研究したい観点を吟味し絞り込む。また、他のグループでの進捗状況を参考にしつつ、発表日から逆算し中間発表の準備を進める。
第5回	中間発表に向けた準備とその進め方③ プレゼンテーションの方法と発表準備	事前学習	中間発表に向けてこれまでに情報収集した内容を整理し、発表資料を作成する。また、配布資料を一読する。
		事後学習	プレゼンテーションの方法について確認したうえで、実際にパワーポイントを作成し練習する。グループでの発表と質疑応答に備えて、グループで資料を準備し、発表に向けた手順や役割について確認する。
第6回	中間発表①：現状把握と今後追究するテーマ グループによる発表	事前学習	各グループは、中間発表資料を完成させる。発表内容を整理し、役割分担を決めて発表に備える。また、配布資料を一読する。
		事後学習	グループ内で発表内容を整理・吟味し、発表に備える。また、各グループでの発表に関するコメントや質疑応答の内容をノートに記しておく。
第7回	中間発表②：現状把握と今後追究するテーマ グループによる発表	事前学習	各グループは、中間発表資料を完成させる。発表内容を整理し、役割分担を決めて発表に備える。また、配布資料を一読する。
		事後学習	事例研究とプレゼンテーションの方法について復習し、発表内容を整理する。また、各グループでの発表に関するコメントや質疑応答の内容をノートに記しておく。

第8回	中間発表③：現状把握と今後追究するテーマグループによる発表	事前学習	各グループは、中間発表資料を完成させる。発表内容を整理し、役割分担を決めて発表に備える。また、配布資料を一読する。
		事後学習	事例研究とプレゼンテーションの方法について復習し、発表内容を整理する。また、各グループでの発表に関するコメントや質疑応答の内容をノートに記しておく。
第9回	最終発表の準備とその進め方① 中間発表後の修正作業と検討事例の選定	事前学習	中間発表の内容を踏まえて、修正作業の有無とその内容を確認する。調査する場合は、調査内容を絞り込み、授業担当者に事前に相談のうえ、調査対象者・機関に対してアポイントメントを取る。
		事後学習	中間発表後の修正作業がある場合は、検討事例を選定する前に修正する。事例選定に向けて、インターネットを活用し、官公庁や子ども家庭福祉関係団体が公表する事例集や報告集等を見つける。その際、取り上げたい理由、概要、特徴を踏まえて考察をまとめる。検討事例が見つからない場合などは、授業担当者に早めに相談する。
第10回	最終発表の準備とその進め方② 事例の分析・考察とまとめの留意点	事前学習	最終発表で扱う事例の概要や特徴を整理する。中間発表の順番の候補を考えておく。また、配布資料を一読する。
		事後学習	最終発表で扱う事例の概要や特徴を考察としてまとめる。また、他のグループでの進捗状況を参考にしつつ、発表日から逆算し中間発表の準備を進める。
第11回	最終発表の準備とその進め方③ 最終発表と研究授業論集作成の留意点	事前学習	最終発表に向けてこれまでに情報収集した内容を整理し、発表資料を作成する。また、配布資料を一読する。
		事後学習	プレゼンテーションの方法について確認したうえで、実際にパワーポイントを作成し練習する。グループでの発表と質疑応答に備えて、グループで資料を準備し、発表に向けた手順や役割について確認する。また、研究授業論集の作成方法について確認し、作成に着手する。
第12回	最終発表①：これまでの学習成果とまとめグループによる学習成果の発表	事前学習	各グループは、最終発表資料を完成させる。発表内容を整理し、役割分担を決めて発表に備える。また、配布資料を一読する。
		事後学習	グループ内で発表内容を整理・吟味し、研究授業論集の作成に活かす。また各グループでの発表に関するコメントや質疑応答の内容をノートに記しておく。
第13回	最終発表②：これまでの学習成果とまとめグループによる学習成果の発表	事前学習	各グループは、最終発表資料を完成させる。発表内容を整理し、役割分担を決めて発表に備える。また、配布資料を一読する。
		事後学習	グループ内で発表内容を整理・吟味し、研究授業論集の作成に活かす。また各グループでの発表に関するコメントや質疑応答の内容をノートに記しておく。
第14回	最終発表③：これまでの学習成果とまとめグループによる学習成果の発表	事前学習	各グループは、最終発表資料を完成させる。発表内容を整理し、役割分担を決めて発表に備える。また、配布資料を一読する。
		事後学習	グループ内で発表内容を整理・吟味し、研究授業論集の作成に活かす。また各グループでの発表に関するコメントや質疑応答の内容をノートに記しておく。
第15回	全体の総括	事前学習	これまでの活動プロセスについて、配布資料をもとにふり返り、研究授業論集を作成する。
		事後学習	研究授業論集を推敲し、最終発表や授業全体で学んだことを確認する。特に、各自及びグループでの作業内容について、今後に生かすための視点や今後の課題を整理したうえで文章化し、研究授業論集に反映させる。完成した後、指定した方法で確実に提出する。